特用林産シリーズ 5

ブナハリタケの栽培

山梨県森林総合研究所

1. ブナハリタケというきのこ

名前からも推し量れるように、ブナの立ち枯れ木や倒木に群生し、独特の甘い香りを持つ純白のきのこです。山梨県内では富士山麓を中心に、御坂山地、奥秩父地域、南アルプス地域などで多く見かけます。一般にはそれほど知られていないので、地域の珍しい特産品として活用できます。機能性成分を含むことも知られています。

2. ブナハリタケの栽培

２－１栽培環境

自然界ではブナ林を中心に分布しています。野生のきのこはブナの立ち枯れ木や倒木上に発生します。比較的冷涼で、空中湿度の高い場所での発生量が多くなります。このため、中山間地域の沢筋や窪地が栽培に適しています。直射日光が長時間当たるような場所や、風通しの良すぎる場所での栽培では好成績は期待できません。栽培法は、原木による自然発生が最も経費が少なくてすみます。

２－２使用できる原木の樹種と栽培法

使用できる樹種は、ヤマザクラ、トチ、カエデ類です。長さ90cm、太さ10cmの標準的な原木を使用した長木栽培、長さ15cmに短く切った短木を使用しての栽培が可能です。
種菌は駒種菌、おが屑種菌の両方が市販されています。

２－３長木による栽培

２－３－１原木の準備

原木の伐採は1月下旬から2月下旬にかけて行います。あまり早い時期の伐採だと、原木が乾燥しすぎてしまい、植菌後の菌の生長が悪くなります。伐採後90cmに玉切りし、日陰に積み上げて、約1ヶ月かけて原木の含水率を下げていきます。但し、細い原木の場合は、木口にひび割れが出てくるまで乾かしてしまうと、植菌後の活着と菌糸の生長に支障が出ることがあるので早めに植菌します。

２－３－２植菌・仮伏せ

植菌は2月下旬から3月下旬が適期です。高冷地では、3月下旬に植菌した方がその後の菌糸生長には適しています。太さ10cm、長さ90cmの原木一本当たり30～40個の種駒を植菌します。
植菌後の仮伏せは日陰に薪積みして行います。直射日光が当たるような場所では寒冷紗などで日除けをします。仮伏せの期間

は、最長で9月下旬頃までです。木口の3分の1以上がオレンジ色の菌紋で覆われたら仮伏せを解いて本伏せします。

２－３－３本伏せ・きのこの発生

直射日光があたらず、湿気のこもるような凹地が本伏せに適しています。榾木を直接地面に並べる接地伏せをします。きのこの発生は植菌翌年の秋から始まります。同一の榾木からのきのこの発生は3～4年程度続きます。

２－４短木による栽培

２－４－１原木の準備

使用できる原木の樹種は、長木栽培と同じです。原木の伐採は1月下旬から2月下旬にかけて行います。あまり早い時期の伐採だと、原木が乾燥しすぎてしまい、植菌後の菌の生長が悪くなります。原木は植菌の時に長さ15㎝に切ります。伐採後3週間程度経過した原木を使用するのが最適です。

２－４－２植菌・仮伏せ

植菌は2月中旬から3月下旬が適期です。ヒラタケやナメコの短木栽培と同じ方法で植菌します。原木を切断したときに出る鋸屑に種菌を混ぜ、それを2個の原木で挟みます。仮伏せ中は、直射日光が当たらないようにして数日おきに十分に散水します。短木の場合は乾燥しやすいので特に注意が必要です。

２－４－３本伏せ・きのこの発生

木口面にオレンジ色の菌紋が現れたら榾木を本伏せします。長木栽培同様に直射日光があたらず、湿気のこもるような凹地が適しています。榾木を半分ほど土の中に埋め込んできのこの発生を待ちます。菌糸の十分に伸長した榾木では植菌した年の秋からきのこが発生します。また、植菌した年にきのこが発生しない場合は、翌年の秋からの発生となります。同一の榾木からのきのこの発生は2～3年程度続きます。

八ヶ岳薬用植物園

お問い合わせは
山梨県森林総合研究所まで

山梨県南巨摩郡増穂町最勝寺2290-1
電話　0556(22)8001
FAX　0556(22)8002